

「思い煩うな」

野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

マタイ 6:28-29

倉吉に住む友人と、「野の花同好会」と称して、散歩で見つけた野の花を電話やメールで報告し合っている。友人曰く、「野の花の名前を調べたり、知らない花を見つけたり、散歩が楽しみになった」と。「次の朝ドラは、牧野富太郎。本を2冊買って読んで」と教えられ、私も(初めて)朝ドラを見るようになった。彼女から届いた野の花だより、今年になってからでも、「寒さが厳しいのにコマツヨイグサが咲いてた」「我が家の庭にヒメオドリコソウを見つけた」「タネツケバナ、ツクシ、ホトケノザ・オランダミミナグサなど春の花いっぱい」「散歩で身も心も爽快、イチリンソウを押し花にした」「次々と春の花がいっぱい！山際にはルリソウとオオタチツボスミレが咲いてた。」「今日はイチリンソウの群生を見たよ。奇麗だった」と写真付きの報告に私もうっとり。「山溪カラー名鑑・日本の野草」という同じ図鑑を使っているの、名前がわからない場合も、写真を添付してお互いに調べ、これは〇ページにあると分かると喜び倍増！ここ数日は、ヒメジオンとハルジオンの見分け方で盛り上がっている。

「鳩が木に入ったけど」という夫の声に、少し気をつけて見ていると、小枝か何かをくわえた鳩が、庭の金木犀の木に入った。ベランダから数歩、まさか、でも以前もヒヨドリが巣をしたのを思い出して、次の日。何と、もう卵を抱いているような姿の鳩にびっくり。

今年は新芽の勢いがすごくて葉におおわれて巣は見えない(そして、ご近所の迷惑になってはいけないから、雛が巣立ったら枝を切ってしまうつもりだ)けれど、いただいたライカの小さな双眼鏡で見ると、葉の隙間から鳩が目の前にはっきり見える。なんと可愛い目、首にシマがあるからキジバトと観察していると、家族が増えたよううれしさ。イエスさまは「空の鳥をよく見なさい」と言われたけど、絶好のチャンスだ。

空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値のあるものではないか。あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。マタイ 6:26-27

ところが鳥を観察していると、イエスさまはなぜ人に「思い悩まなくていい」例として、空の鳥をあげられたのか、分からなくなる。どう見ても鳥と人間では違いすぎる。だいたいアダムとイブの時代から人には、「お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。・・・お前は顔に汗を流してパンを得る」と言われているのではないか。それはもちろん人が神に背いたからだが、罪をもたない鳥や花を、人間と同じ土俵において「野の花を見よ、空の鳥を見よ」と言われても、真似できるわけがない・・・と思ってしまう。

そんなことを考えながら、来週の礼拝聖書箇所、「ヨブ記」38章の予習をしていて、「あなたに尋ねる。わたしに答えてみよ」という神の言葉に、

天が地を高く超えているように

わたしの道は、あなたたちの道を、

わたしの思いは、あなたたちの思いをはるかに超えている。イザヤ 55:8-9

との御声が聞こえる思いがした。

ヨブは思いがけない艱難辛苦を受けて、3章からずっと、「神よ、わたしはあなたに向

かって叫んでいるのに、あなたはお答えにならない」「どうか、わたしの言うことを聞いてください。」と自分の正しさを主張、その立場を譲らず叫び続け(私たちはヨブ記を読み続け)やっ、38章。

「主は嵐の中からヨブに答えられた」と、待ちわびた神の答え。
ところが、神はヨブに苦難の意味を教えるどころか、「あなたに尋ねる。わたしに答えてみよ」と、神がヨブに問いかける。

わたしが大地を据えたとき、お前はどこにいたのか。・・・

お前は一生に一度でも朝に命令し、曙に役割を指示したことがあるのか・・・

死の門がお前に姿を見せ、死の闇の門を見たことがあるのか・・・

ヨブ記 38章 4・12・17

罪ある人間が、空の鳥のように思い煩わず生きられるはずがない、どころではない、人間が、神の創造「大地を据え」「朝に命令し」「死の闇の門」など、見たはずがない。なのに、神は自分の正しさを主張して止まないヨブに、「わたしに答えよ」といわれる。

「神はヨブに問いつめられるようなあわれな不自由な神ではなく一従ってヨブの作った偶像ではなく一正にその逆に世界を創造した神、従ってヨブの創造者であり、ヨブに答えを要求する神なのである。人が神を求める方向が逆転して、神が人を求め給うことに気付き、神の側から絶えず生かされることが、聖書の信仰である。その逆が凡ゆる宗教の道である」

こう記される関根正雄・ヨブ記註解は、キリストこそ「神の側から人の方に向けて下さった」最後決定的な神の恵みの出来事であり、人生、あらゆる不可解な苦難の中にあつて「神の世界支配の秩序への信仰は」キリストの十字架にあらわれた神の義によって保証されていると、感動的に解き明かされていた。

空の鳥と人では違いすぎます、とつぶやく者に、イエスさまの御声が聞こえるようだ。

「鳥も人もわたしが創った。」

「わたしを主と崇めながら、わたしの愛と赦しを信じないのか。」

「わたしが、あなたを罪のままに放っておくと思うのか。」

「わたしはあなたを贖った。あなたはわたしのものだ。」

あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。マタイ福音書6:32-34